

会員の
ひろば

私とオリンピック —地下鉄とアイスホッケー—

住 友 寛

1. はじめに

新企画の発案者である佐藤厚子技術士とは幹事会の席が隣りであるため、「コンサルタンツ北海道で私とオリンピックを始めるので投稿してほしい」と依頼されました。私自身、オリンピックには浅からぬ思いがありましたので、その場で引き受けました。このような機会を戴いたことに感謝申し上げ、40年以上前の出来事を振り返ってみたいと思います。

2. オリンピックとの出会い

初めてオリンピックを見たのは、1964年東京オリンピックのテレビ中継で、柔道、バレーボール、体操、マラソンなどでの日本人選手の活躍に感動しました。

また、1968年メキシコオリンピックではサッカー日本代表が銅メダルに輝き、日本でのサッカー熱が一気に高まりました。これには私も触発され、高校時代はサッカー部に所属しライトウィングでプレーしました。

しかし、何と言っても1972年に札幌で開催された冬季オリンピックは、私にとってその後の人生が変わるくらい忘れられないオリンピックとなりました。

3. 札幌オリンピックと地下鉄

当時、札幌市北区の高校に通っていた私が、オリンピックが開催されるということは凄いことなんだ、と思ったことがありました。

それは、地下鉄と地下街の開業でした。とりわけ、地下鉄南北線が真駒内駅から北24条駅まで開通したことは、夢のような話が現実となり、通勤・通学・買い物などの市民生活が飛躍的に向上しました。

当時、北24条駅から中心部までは路面電車が走っており、大通公園まで行くのにだいたい30分から40分もかかっていましたが、それが地下鉄では10分くらいで着くんですから、当時としては凄いことでした。

オリンピック開催がなければ地下鉄の開業はまだ先の話になっていたでしょうし、地下鉄の駅を核とした街づくりもこんなに早く進まなかったでしょうね。

オリンピック開催はインフラ整備にお金がかかり、財政を圧迫するとよく言われますが、市民生活や街づくりには大きな貢献を果たして来たと思います。

余談ですが、地下鉄とともに開業した地下街（ポールタウン&オーロラタウン）のオープン当日、学校帰りに北24条駅から地下鉄に乗って大通まで行き、そこからススキノまで地下街を歩いてみました。

その時に驚いたのが、人が溢れてごった返しになっていると予想していたのに（確かに人は溢れてましたが）、皆が整然と左側を歩いていたことでした。特別、左側歩行を誘導していたような様子もなく…。

今思えば当たり前のことだったんでしょうが、まだ高校2年生で人生経験の浅い自分にとっては、とても新鮮な出来事でした。あれから40年以上経ちましたが、地下街は今だに左側歩行が基本です。

4. アイスホッケー

私の人生を変えた（技術士取得と同じくらい）と言っても過言ではないのが、札幌オリンピックの時に真駒内アイスアリーナで観戦したアイスホッケーの試合でした。



ヨーロッパ勢同士の戦いで、大柄な選手たちがパックを奪い合って激突する姿に興奮しましたが、それから2年後に自分が実際にプレーすることになるとは、その時はまだ想像もできませんでした。

帯広の大学に入学後アイスホッケー部に勧誘され、迷わず入部を決めたのも、オリンピックで生の試合を間近で見て感動し、「自分もやってみたい!!」と思ったからにほかなりません。

大学時代は授業、実習、試験、研究などに費やす時間よりも、アイスホッケーをやっている時間のほうがはるかに長く、シーズン中はもとより、シーズンオフの夏期もサッカーやウェイトトレーニング、アルバイトなどに大半の時間を費やしました。

社会人になってから出身大学と学科を聞かれると、「帯広体育大学アイスホッケー学科です」と答えざるを得ないほど、アイスホッケー漬けの毎日でした。

おかげで卒業まで5年かかりましたが、3年連続



でインカレ(全国大会)のベスト8になり、当時、関東一部リーグの早稲田大学や大東文化大学などとも対戦し、その後日本リーグの選手や監督になった人達と戦えたことが一生の思い出となりました。

4年目の冬に日本リーグの名門「岩倉組」(後の雪印)から求人が来て、「筆記試験無し、面接のみ、体操着と上靴持参」という募集条件を見た時には、マジに応募しようと思いましたが、既に留年が決まっていたため断念しました。でも、岩倉組に就職していたら応援団員が関の山で、今頃どうなっていたことやら…。

技術士を取得できたかどうか分かりませんね。(笑)

卒業後、若干ブランクはありましたが、大学のOBが中心となって結成した社会人チームでプレーを続け、大学時代から数えると40年以上もアイスホッケーと関わっています。

40代後半で現役を退きましたが、50代半ばまでコーチなどの裏方を務め、還暦を過ぎた今も応援団の1人としてアイスホッケーに関わっています。

それもこれも、札幌オリンピックでアイスホッケーの試合を観戦したことがきっかけです。

このように、「私とオリンピック」は切っても切れない間柄となりました。

住友 寛(すみとも ひろし)

技術士(農業/総合技術監理部門)

株式会社 都市田園協働ファーム

